

宝林宝樹

(47)

かえる世界

学生時代、休みになると里に帰り、心の充電をして、また、都会の生活や学業に励んでいたことを思い出しました。実家では、何の心配もなく自由に思いどおりでさる場所でした。しかし、家から出ることによって、色々なことに気づかされることもあるのです。

昔から「可愛い子には、旅をさせよ」と言われています。旅といえば、国内旅行や海外旅行などがありますが、その旅が共通していることは、必ず帰ってくることです。言い換えますと、帰るところがあるから私たちは安心して旅を楽しむことができます。

親鸞聖人は、かえるところを「浄土」と見い出されました。ところが私たちは、浄土がわからないので、目先のことにとらわれて、仏法の世界がわからないのです。また、浄土のことを「無量光明土」とも表され「あらゆる命を育み、照らし、まもる」はたらきがあるとされています。たとえば、私たちの見えないところで心臓が動き、息をして、血液が流れ、また、色々な命に生かされています。

浄土の世界にかえるということは、阿弥陀さまの教えを聞き、人間に生まれた本当の喜びに気づいていく事なのです。



宝林宝樹

(47)

かえる世界

学生時代、休みになると里に帰り、心の充電をして、また、都会の生活や学業に励んでいたことを思い出しました。実家では、何の心配もなく自由に思いどおりでさる場所でした。しかし、家から出ることによって、色々なことに気づかされることもあるのです。

昔から「可愛い子には、旅をさせよ」と言われています。旅といえば、国内旅行や海外旅行などがありますが、その旅が共通していることは、必ず帰ってくることです。言い換えますと、帰るところがあるから私たちは安心して旅を楽しむことができます。

親鸞聖人は、かえるところを「浄土」と見い出されました。ところが私たちは、浄土がわからないので、目先のことにとらわれて、仏法の世界がわからないのです。また、浄土のことを「無量光明土」とも表され「あらゆる命を育み、照らし、まもる」はたらきがあるとされています。たとえば、私たちの見えないところで心臓が動き、息をして、血液が流れ、また、色々な命に生かされています。

浄土の世界にかえるということは、阿弥陀さまの教えを聞き、人間に生まれた本当の喜びに気づいていく事なのです。

